へ 5
6653

へ5
6653

[illegible]佛[illegible]の人[illegible]
いか[illegible]
亦[illegible]今[illegible]
[illegible]龍八大[illegible]の林[illegible]の
いき[illegible]人のあ[illegible]こう[illegible]七
[illegible]
[illegible]林八海[illegible]
[illegible]の陰よ[illegible]

〈2002-42〉

短冊といへるは俳家無人よ立ふるやうなれ
よ風のみえるたえ〳〵しかくきけるまゝなり
世の於風俗なと世中多くて芭蕉翁の
言れたりとし一句のめしになるゝ中に於
むかしききこのむ八何かしられこのしを
持たる人ゝ道をえんかりに河沿をぬるを
に於きかきり道かへい（へ）る色のきはのし
らく亭讃詩の冠のこのまゝに風雅の

情ふるむくに此あれを道にさえなるあり
無量寿経の文に盛しるものゝ序に
すゝし於きぬ
田村集之篇のなしにくかにいまし筆
書於けることの道あるへき世なんと
ふかくしも於あて

無派子　一具

天保壬寅日至前二日

立川登美蔵
圭岳
原吉

正月一具華先生評

撫子のうつくしかりし面影を若葉の中に
見出すの心ばえ　村瞻
日ハ西ニかたむくまで若葉ハ花の中　素考
若葉撫子の花ちりしきし中の中　智孔
彩雲を志ろしめすうつくしき若葉哉　芳樹
撫子をうつくしと思ふ若葉哉　其梶
うつくしき撫子の若葉の影　公
消残る雪の下ハ若葉ノ中　フタヘザク　宮下
ちらし来て松ハ若葉に埋むまで　一口タ　彩毋
雪の底ニ眠るや杉の小ハ　范父

雪やゆき嵯峨ぬ宵の月ハ　友甫
うつくしき花の影ゆふ清滝哉　のふ女
雪の嶺一夕ゆふ華の　文仲
うつくしき花の影ハ動かぬ井の枝　知交
雪ふる若葉ハ桶をおほ村　波雪
花中糸ハ行ふ吏　美月　章村
花中きれぐ雪ハ危烟糸　村瞻
古雪ふる風のうつくしや花中　古川
風筋やくふハ千江ノ月花中　友甫
花中きれぐ佛きれの夕ア紫　如叔
　　素考

明くさくふる雪ふる　あり　れ中　知平

れ中の結ふ猫のこゑする戸口哉　のぶみ

例ふれ中　雪く　仮管ふ子供角　其規

れ中　あけるまふ麦畑を踏色々　其彦

指さ　くさおさ　まふ供や　れ中　彩母

和くこのまふ作みふこぬ茶葉哉　友甫

仮員袋を指く　若葉の成り栄　素考

まふいさを吹けく　指若葉うち　因市

三日月と八日の月やいこのほう　文仲

老の眼ふやくうぬ　ろやれ中　山三

秀逸

さくさねくくれ　指ふや若葉　吐月

黄色ふ成る　枯の　さくうち　良賞

吹けくれ中　枯あく　河原柴　枝月

二月由指居先生俳

掃寄くおりふ　枯うち　素白

水除ふ　枯くさふ　枯もさふ　秀李

傘ふ　枯　雪の　つ　相陰

茶屋れの　枯もふ　枯くう　素考

枯雪くく人　枯くう　枯う　山笑

桂樹　共彦
深心ふかくとゝ少きさくらの枝　少南
春陽和々鶯芳草の年　斗耕
数々ふる雨ちるふる春の花　良賞
見極めゝ別の枝折る桂哉　仝
おもひたゝき掃ぬ〻ゝ洞の月　吐自
月たゝの枝ふきたる猶の意　休可
春和々物を咎め女猶年　義和
うゝ〻と月の中空や猶の意　智心
意猶の彦を通ひ紅涙の郎　温甫

果しるき不免猶りや猶の意　如歌
仕合と大内山の遠ひのこゝ　知文（ホメキ）
意ゝと志ゝ見ふる猶この年　共彦
意猶や牙猶や耕作の習　波秀
新ゝ家も家も春も猶の意　宝下
暁合ふゝ時ふゝ猶の意ゝ　吐月
叫の甘ゝ猶ふゝ猶の意　芳樹
春の月ゝこゝ猶ゝ耕作の習　素白
春の夕雪も春ものゝ春ゝ刈　一辨
新も春ゝ琴の音や春の月　松風

夢田川千年ぞ春の春の月　梅枝
墓の苔や春雨の春の夕　梅舎
ふるさとの春も世帯やたるの月　如軒
梶くり魚ゑぐるや春の海　仝
春の月田舟沈の定りなし　村鶴
水ぬるみ桜ちりけり春の月　仝
竹や木ゑ芽ぐむ芽吹春の月　貞彦
辻堂の法座のすゑ春の月　宗南
ちるさくらゆの仁粕豆腐や春の夕　斗耕
南ゑ手ゑ編ゑを打りや春の月　良賣

うつうつとつゆ子たる家の月　西仲
ちらちらあけくれやや梅の香ゑ　素彦
軒くらをの花ゑ春の花ゑ　知象
ゑ手ゑ笑ふ夕ゑ行き梅ゑ形　相仙
吉ゑ安めけて立ゑ梅の恵　素白
恵行ふゑの立ゑ戸口ゑ年　素彦
破壁ゑ書ゑふ猫の毛ふゑ形　文仲
春の月芭蕉ゑ戸ゑ山ゑ海士ゑ家　休可
風ゑ立ゑ風ゑ春の月　良賣
海の夕ゑ松ゑや春の月　雪筍

春遊

立入し島枝ふりもちなき梅の花　眉蕉

春ると見る青の重くき桂ゝの雨　文雅

恋猫の木の芽をきる夜明の花　菱和

女男猫も詞やいゝ居らぬ恋夢り　其桃

野ゝ畑も風の香のある春の月　喜月

折坊ふ人もまちむ此春の月　宇先

追加

黄鳥も侍ぬて啼き法師の邦　古川

しく私もやよく日の鶯鉢の数　為葉

聖人くすや鶯啼ぬかとき　桐信

篝持人も黄鳥ふりむかぬ　梅枝

鶯や気ゝのふふ夢若霞より　保平

是ハ唯のふ為るにおきくし若菜　真茶

若菜摘ふ海の唄吉野の利　為葉

野ふあそて真心万ふ命し若菜摘　梅枝

装束の紐し気経て若菜添ゝ　全

梅の咲垣根一つに添む若菜の花　心笑

風筋も折ら鳥きり気尭亭　松居

引渡る見わや野地の帰亭　桐信

吹切て一心とけやう　春　　松風
所中の柳ふるきて凡中　　鼎
凡中きれて降るひくひくの雪小　　知山
雪ちやたちくくの家中所　　四耕
孫人の凡中をまぬふ場うの年　　集三
春日しを葉色とのふ美菜汁　　保平

秀逸

二人来て主人は摘む美菜うれ　　古川
雪ふ逢初こうて主孫の先　　砕翁
凡中上ふ岬の小坂ちくわ　　万葉

三月福芝齋先生評

門雁の余波ちれる浪のひく　　古川
遠く下や月の沖ふ海の上　　知心
月八今星の中ちくや内ち丁　　春古
内ち雁春光の里の面根ち年　　眉蕉
俳家ふ雁く所の俳を吹春光　　如親
門雁の吟て春ち子供の年　　其梶
梅山法の学殿行こうち見柴　　イヽタ　莨郎
梅雪吟花の春ちの世ち光　　上合　甫月
年くちと付ち門の花　　友甫

武士の俤ふかきやまとゝ心　　月人
有ふ八木きもちうき志ぶ山　　キ心
志ぶ〳〵ゆ〳〵しみ侍れ名村　　相陸
出代や俤変ぬ〳〵く物哀れ　　其彦
出代お書きもつもものうけ　　朱葉
出代の姉ふ〳〵仙し妹うきゆ　　其梶
出代や田舎八橋の蔭きゝ　　松鶴
後ひらふ松ゝくもの子　　素有
江の出や猶〳〵ゆれ八帰る雁　　柳美
り雁や浦編の文のあ郎　　氷雁

菱池を見こゝ〳〵志雁の名残の名残　　村雁
躍〳〵見ゆ帰る雁　　岩南
おゝ〳〵軍中〳〵ゆ〳〵丁　　雪篇
郭軒の窓を口きの山　　氷雁
三日月を見り付〳〵志の山　　岱元
釜き〳〵字ふ別色名　　波多
志ゆ〳〵一宵名　　松風
出代や雨ふ降〳〵変〳〵り志ふ　　草郊
出代の荷おゝ〳〵雨も家れ名軍　　光女
おゝもゝのゝ〳〵ゆ〳〵喉篇一重名　　耕甫

出代や襟のまゝ合はす木しの上　奉古

出代は小雨に出る気の毒　柳里

出のまゝや小宿り定まる庵の口　酔翁

春　遊

雁立て遅き子寺の鐘の声　素芳

花車にひき捨てあり芝の露　豹年

出代の眼に立ひとり日の雛　素芳

野夕汐焼くるや霞の汁　雪筍

追加

ゆくへしれぬ日の春来寺や京　桂

柳笑

折にふれ蓮を草とぞ桂　奉古

竹影の屋根洩る家や猫の恋　耕甫

はやつけは騒しきくなり猫の恋　為葉

恋猫の中を無理に流れる車　秋月

四五寸も置く障子や春の月　奉古

春　遊

春の月水田にしらしく春の秋　阜心

一具菴先生評

帆をかけて見しも帆を見るくもり夕　仙台　村桜

春の夕かすみに芽吹く夕ぐれ　米沢　探心

[illegible]

米沢西大塚　栗峰
米沢　一竹
矢作貫　鍾心
水戸大田元年　心成
化由
栗峰
米沢　一学
ぬ雪
江戸　伏猿
竹貫　紫月

[illegible]

仙台　菓美
栗峰
一学
ぬ雪
猪心
米沢　泡松
柳面
水戸三谷八左　陳菓
栗峰

[illegible]

[illegible]のはさまにおりて孫一思ひ
堅粕のうちにいろいろ吉の月　孫心
何神のおろしてかの玉　持　碑義
遠祖とおもふ[illegible]のかの書　物面
[illegible]の[illegible]の少さ鞠場の京　めで
冬[illegible]若葉指[illegible]六日　孝　孫栄
神のさく古葉[illegible]おもふ若葉栄　孝芭
[illegible]彷徨心の[illegible]葉の[illegible]　除栄
黄八[illegible]よろこぶ桃の若葉栄　栄峰
夢やホ巻を百八もたるあしの長　めで
清化

黄色に附[illegible]　[illegible]
[illegible]やおそ出たは[illegible]八[illegible]町　除栄
江の[illegible]やまと[illegible]　栄峰
きれ[illegible]の家[illegible]帆を下[illegible]　孝芭
手ホ葉[illegible]八夢[illegible]　栄峰
[illegible]日あホ[illegible]出　文雅
[illegible]の[illegible]　美心
[illegible]　除栄

四月一具尾先生評

部[illegible]節切方や葉ホ月　文谷
引[illegible]今ホ月あ[illegible]　一笠

ほとゝきは啼初る日から四月かな　智心

降日八橋にかくれてほとゝきす　（クミアケ）一基

子規きくや洗つく夜着の襟　砕翁

ほとゝきす皆紅き夜明かな　松風

湖の空さく様しほとゝきす　眉兼

二階へのあれほとゝきすなきしく　心笑

自雲に天よ宗切え郎公　心三

杜鵑やまさかる鳥たちの鳴　友甫

入る月にこつは但し時鳥　智乱

吹るれる耳の後やほとゝきす　良貫

ほとゝきす啼や峠の根なし空　波鳥

時鳥麓陂に夜のあけ棹り　（カマタ）东吟

井の水のあし酒や杜宇　（コモタ）鳥門

一声や帆にまれ遠にぬ帰　（ヨシカケ）桃里

ゆたらに舟からやほとゝきす　（アコカケ）桃史

見とれにも人も待かね杜宇　風斧

灌佛や臣ゝ見えて笑たり　柳里

蝶々の来るし居城あおち墨　文習

灌佛に配もしの心家ゝ非　梅枝

灌佛や児の手をとり小傘　松風

灌佛や羽蟻乱れ孫の上　肩蕉
灌佛や恒結きつゝ　若子畑　蒔麥
灌佛やまゝ免れ難き　而　友甫
灌佛やさつさつと子の持き　村碎
灌佛やまゝ貧乏のとれず　智礼
灌佛や乳母が抱し人が来る　其梶
原〳〵場ふ人が御生今　深平
灌佛や彩〳〵つゝ老の枝こつゝき　斗耕
灌佛や赤茶〳〵野戸の石根　芳
灌佛ふ事ゝ遠ゝ子が儒まうれ　吐月

夕月やけさうき寺の色淡き　甫二
卯の赤ふ雪の立ちて戸口来　柳里
卯の色ふ淡ふ立ちめぐる小僧うれ　柳枝
卯の花や子付ふ稲こ雪九ケ　一茎
卯の花の陰心淡ふ明ふ月　去月
子雪ふ家ふ立ちゆ中ゝ老卯本　キ心
面白卯の赤ふ心根うふ　胃蕉
卯の色ふ陰の〳〵安き本〳〵危　ぬ祝
卯の赤ふ雪ふ子ふ生ち根こ　心之
うの色ふ淡ふうゝ伏富うれ　姫木

呼のをか進すぬるの夕ゝるに　休一
うゝ寺ゝか和の色紅葉哉　友甫
咲行〳〵呼のを聞るゝ仕るに　良貴
時雨ふる景〳〵ぬ庵の呼本引　俊秀
卯のをは呼は寺ゝ井戸一ツ　花父
咲行の笠かゝしゝる和本哉　昇
うゝ社を打るゝ成咲る花　文仲
景ゝ行ハ咲和の社垣ゝに　素秀
川縁りや麦の中ゝ咲和本　中居 陸秀
ほゝきゝ人ゝ落ゝと鳴ゝ夕ゝるゝ　トヽシエウ 阜心

異ふゝ打ゝゝ打やほゝきに　休可
落御や咲ゝうゝ子を中ゝ起ゝ　クミアケ 言月
紅葉の花ゝ引ゝる月や御生今　山笑
ゝゝ咲の時ゝ言葉や御生今　友甫
ゝゝう中ハあゝゝ御の産陽に　素秀
呼の社垣ゝに花ハ野ゝうゝ　温甫
和の色ゝゝみ行花学の夢　友甫

秀逸

きのふゝ呼ゝ郭や山ゝ寺ゝ　相伝
見れば少人ゝきゝゝ時雨　ノトモ 宇之

名のたゝれぬもあるべかめる仏等　昇

灌仏の日ふる雨を花の水　汁耕

仏のもとをそらに畑の廣さかな　為業

雨の花や宮ふるに星ハ古し　貞亭

遠加

おもかゝるもこうそくるる樹こう水　アマカケ　樹史

白のゝしかこるる鶯きかうくる雁　ヨミカケ　春賀

帰るやらそ宵ハ月の雲音　樹史

出代の表〳〵れりや茶園畑　符英

さうしきやあるの小風呂　樹史

炉のそゝふ百せ板ふ泊ふ　四耕

四月分

狩〳〵手ゝ乳房ふ乳く杜宇　赤沢　めを

撰の古茶ふ〳〵わふめ帰　琉球　盛光

板之の花遣る青や庭〳〵　ヶ尾　亀毛

灌仏や茶ふうふ庵の板　茶峰

灌仏や残りハ古ふ庭〳〵　天竺中　鍋山

灌仏ようく金魚田松ふ　陳茶

肥前ふ弁の花ふ本須宿　めを

弁の花や茶ふ箱根の道　叶夢　常月

[illegible]や通夜客　信元
和の色ハ手もとなかの盈ちかれ　[illegible]沢　守彦
和の色やめ[illegible]家の彼方恨相　[illegible]川　東巨
うの色や日あ[illegible]の来き[illegible]の家　琉山
冊の色か鏡のきら[illegible]ら子　貞枕
小松か[illegible]や[illegible]　栄峰
藩御やは家ことか茶の奏　[illegible]冊　文雅
藩御や[illegible]過ぬか里の子　[illegible]戸　芳水
和の色かく[illegible]の[illegible]燈の[illegible]　栄峰
冊の色の[illegible]しの衣何か　信元

秀逸

冊の色か[illegible]清吉か燭か　琢栄

五月采木園先生評

俤部　汐ものや波の寄[illegible]　[illegible]川　国麿
夕雲や波か[illegible]宋[illegible]き　柳里
雨くさ[illegible]の[illegible]か峯波の[illegible]　め秋
色の枝の都の如蔭の[illegible]か　休可
波か寄の老く部[illegible]波の[illegible]　田市
波の部か夢の[illegible]先[illegible]　文雅
風の夕波[illegible]耳か衣の部　年山

牧の彦やとの法士ふ家ふ一つ口　共彦
牧のふ志や紙屋白ふ納戸口　斗耕
牧の彦ふ森ふ家ふ家ふ衣ふ　梅枝
彦の牧や華の先ふ中ふる　秀雪
初ふの牧ハ登せふ家ふ中ふ　友甫
牧ふ家ふ僕ふ乙出ふ猪ふ坊　少南
望羽ふ庵牧ふふ田植ふの年　柳里
彦ふふや一係掛ふ田植笠　幽叟
牧中ふ乙ふ彦ふ侯彦ふ切衣ふ　東巨
ふふふふいふふ牧の彦ふふ弟　越後下除　菜子

牧の彦ふり牧の彦子牧ふ彦　宗月
牧の彦や打ふふ牙猿彦の島　朶峰
彦ふ乙出ふ星ふふ多羽の田唄ふ　休方
少ふ牛や田唄の中ふの彦ふふ　素有
乙嫁の子係乙ふふ田植ふ彦　良黄
一押ふ乙ふふふ乙ふ夕田ふ猿　去自
猪ふふふ子の乙ふ田ふふ彦　梅枝
乙ふふの彦ひふふ乙ふ田ふふ年　栄松
植ふ田ハ牧ふふふふ彦月衣ふ　波多
畑乙の中ハふ田植の彦ふ彦　初孔

田うゑ四日の等係の却行き
稼ぎ出で時と云ふる田植うの部　　肩蓋
田植えの来るあけさらさら二竹ぶし　　有雅
子敬寺のあやうき田植うた　　仙元
中たちしるべ又巻くなる田うゑ部　　市兵
和の吉き境ふ寺の田植うの部　　（天二本校）　　橋井
植下るうふ風あり浮田うの本　　栗峰
あり如き浦宮の蛍や立本立　　赤沢　　風兮
晴ふるる天業ゆうや立本立　　有雅
陣るる日の西ふまたるや立本立　　宝立　　清地
　　橋井

舟のうく所のゆうや立本立　　二本校　　玉机
奥ふかき本魚の音や立本立　　仝　　浮知
和の蔭ふ和吉やうの本立　　栗峰
陸孔家ハたるすたたたや立本立　　古川
和又陸めうの和ゆ宮拝や立本立　　民枝
境内ハ人たたる拝ゆうや立本立　　素秀
陸ふ入日の毛宮ゆうや立本立　　肩蓋
川ゆ行ゆ風孔ゆたたたや立本立　　村碧
つたふ新起たたやゆ川本立　　キ心
巡礼のたたうふ音ゆうや立本立　　仝

月見西に出るまつめ社やまつ木立　斗耕
まつ〳〵と陸の吉あつ立　砕石
物いふ〳〵ものいふ〳〵すやまつ木立　匂孔
水さきの わたさ谷ものや立木立　仝
仲間て灯をぼふ家や立木立　莞爾
牧ふつふ起てつふやく多水引　文啓
今ぼく〳〵猪の沼てう牧めてう　田市
牧の家ぬてうぬ世仲の桑　知文
牧の者やまつ〳〵牧くてうの家ぬ　砕石
芳てう〳〵古京牧の明軒端柴　有雅

静京牧の者家宝居て京　仙堂
傳の〳〵退出され来〳〵明牧て形　めい木
来てうぬてうぬ弾象の沼ぬ皇牧小　雨琴
田子持て京〳〵ぬ沼〳〵や弦貧舶　猿心
孫てきの家ぬ月さて桂田て形　越後下浮　泊〳〵
八舞のきつて也きぬ田桂てき　栗原
傳田て明て仆合京田てう形　民枝
明て持て田小水也京田てう形　心之
月月や一類て沼〳〵田てう　キ心
一世りりハ京あて明京立　莞爾
移月

履物のまゝぬ寺内や青木立　李有

河藻も味くらのあをやゝ青木立　素白

埜火末請まや手川木立　祇山

枕印の影ろけくあり青木立　東巨

格式のまんか寺あり青木立　風呂

一口ハ一めくらぬ峰の田植の娜　竹和

秀逸

蚊の声やすまし穂手丸ぬ杭とゝ　仙臺 苔之

物おもひ衣丸い抜の常戸口水　素秀

怠さんふ組まゝり田植哉　兀葉

笠ぬ人も通りあふ田植かな　嘯岾

来くるれハ家四五軒や青木立　友甫

鐘済けハ夕くれ近くや青木立　仝

追加

灌仏や出ゆかね組出ヶ庵北り　万和

灌仏の塞涛干五仕舞ハめ　莞尓

灌仏や母の手つの了葉の御饌　秀李

森まむの吹れなる形り文仕む　万和

出代や戸口の声丸ぬ丸け焼　莞尓

六月田喜庵先生評

浮きて九月を経紙一のく行く松　甫月
ゆくそうと吉くる宝丸や浮の寄　朱栄
笠島の色もかわきめ浮の寄　休ゥ
唾浮の来く蟬　浮を焚ふし尾　眉蕉
蟬ちくや鳴く　ちる松移井戸　松風
夕立や雑居ふきしのく　共柳
夕立の物う砂したる搭田の搭　秀李
夕立やきく通きく松の下　村路
夕立をうし移かふ来く芳田の搭　休ゥ
芋の戸や夕立るの禁け切り　ぬ秋

夕立ふ素きくかける寺男（コモタ）　自楽
夕立や掃のく雷庵の墓　友甫
旋毛や人の寝く居る奥心家　美心
鳴く鶏の葉ふ咲や心の傍　朱栄
敷子毛や変きく色の砂園　一碎
旋毛や木信心移ぬ　祖　ぬ秋
鳴く鶏や日の仕きの撥ちり　江戸　司搭
鳴く鳥や歩りくハ芋ある　栗峰
夕立や信濃毛孔る松の傍　西ち、井　栗立
百姓毛ちの芋夕立のちゆ光　幻芋

ほとゝぎすや茅葺し色ゝる椎の本　其扶
ほとゝぎすやてゝ家の藤の紫ゝ　阜山
湖ゝ江ふ泡の玉川是ほとゝぎす　朱采
ほとゝぎすや丹ゝ仮ゝかゝ山伝ふ　休石
ほとゝぎす木の下ゝゝや紫の山　め秋
ほとゝぎす釣瓶おろしゝゝゝゝやほとゝぎす　一基
ほとゝぎすゝ杉ふ夕日の残り雲　知礼
雨の雪を横日のさゝやほとゝぎす　汶子
ほとゝぎすゝや水をゝりゝゝ茶屋　京叶井　太通
杉の宮の雲ゝつゝ雲やほとゝぎす　日本橋　杉汶

一村ふ峠ゝゝる雨後の時　滑知
ほとゝぎすゝや石きり所の夕時分　風子
心の井の風ゝ湯ゝゝほとゝぎす　豊山
ほとゝぎす峠や陽炎の玉ゝ彩の松　西ゝ井　菜邑
ほとゝぎすゝや立場の遠き工場　全
州の戸の夢ゝゝゝほとゝぎす　白夢
板の宮やゝゝ立渡ゝ峠ほとゝぎす　古川
ゝゝ立やほとゝぎすほとゝぎす　ゝ女
合点ゝゝゝゝゝ立やほとゝぎす　白葉
ゝ立やほとゝぎすほとゝぎす　田市

夕立や新口や一閻魔堂　斗耕
夕立や境内酒屋の赤い傘　素白
夕立や動く蟻の道の上　梅枝
夕立や猶追あげる川の水　松風
夕立や木の芽をうつす面の雫　孝道
夕立や雫雫の馬ばかり　梅沢
馬ばかり夕立の雨ばかり　梁峰
夕立やお濠の蓮の葉　風兮
夕立や一雨ごとの樹の影　清心
夕立や渡し場の書院　先今

白鷺の雨の中の心地　素行
動く点や木の影の夜の波　岩城
蚊帳の雨の中の庭の花　文世
捉へや寺の門の水の音　栗山
動く音や咽喉をうつす蚊帳　秀孝
動く影や掃き捨てる塵の中　田市
蚊帳の雨や汐の音の聞こえる　休可
蚊帳の雨やそこらの砂の上　相信
動く点の蔓の根や閻魔堂　去月
動く影や子鞋の赤の色　素有

[illegible]　　浪甫
[illegible]　　末沢　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　末沢　[illegible]山
[illegible]　　[illegible]山
[illegible]　　[illegible]山
[illegible]　　[illegible]色
[illegible]　　[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]

秀逸

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]

追加

[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]

七月小義葬先生伴

[illegible]　　カメカヤ　[illegible]園

[illegible]の[illegible]や[illegible]の川　田市
田の中ふ入紅町や[illegible]の川　素彦
星[illegible]や[illegible]の風の秋　朱栄
[illegible]の枕や天の川　文仲
[illegible]や[illegible]の[illegible]の[illegible]　猛山
[illegible]の暑や[illegible]の[illegible]　古川
[illegible]の暑や小松原　阜山
心の相ふ[illegible]の暑き[illegible]　松枝
[illegible]の日あ[illegible]の[illegible]　友甫
山里や[illegible]の暑の[illegible]の[illegible]　仝

我宗八[illegible]ふ[illegible]の暑き[illegible]の[illegible]　素有
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　東巨
[illegible]ふの[illegible]苦八志賀の車道　文路
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　素月
[illegible]相と沙[illegible]の[illegible]や[illegible]の枕　松風
[illegible]の戸や[illegible]て[illegible]の[illegible]の[illegible]　其梶
[illegible]の[illegible]や小[illegible]東　田市
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　素彦
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　其彦
白[illegible]八[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　良[illegible]

東臣
芝栗
汁耕
芋南
芝麦
舟乳
豆黄
有稚
胴陰
汁耕

素有
村碑
田市
波多
海風
花父
松風
素白
朱栗
左南

[illegible]

秀逸

七夕や蓮とゝまる[illegible]の山　相俊

[illegible]月かゝる[illegible]　温甫

[illegible]　吐自

八月風雅先生評

稲妻ふむ[illegible]合[illegible]二日月　柳美

稲妻や[illegible]烟[illegible]　莞爾

稲妻の[illegible]　朱泉

稲妻の柳[illegible]来[illegible]　吐月

稲妻や川の[illegible]の青市　李吉

稲妻や[illegible]心の新　文仲

稲妻ふ翌日の[illegible]の[illegible]　左甫

稲妻や巌の[illegible]畑の[illegible]　陳山

稲妻の[illegible]光[illegible]雨あ[illegible]　朱沢　松義

元禄の艇[illegible]　古川

魚[illegible]の人[illegible]　莞爾

[illegible]ふ仮[illegible]や[illegible]の中　文仲

風[illegible]八[illegible]の[illegible]の[illegible]　碎山

[illegible]　松花

雀の名れも去年鳥しれ鳴子かな　アメカヤ 書左

此枝もまゝ息災ゟ寺る子川　鶯朶

道よく八鳴子と鳥て初しく免　府中 一馬

月ゟ汁や薬よ子て入ほし鳴子鳥　和田 有菜

鳥ゟ見もしまゝ趣きちき鳴子かな　田市

志ゟ雲や鳴子の風の物まゝゟ　山炭

旅ゟしとみゟ人やしく鳴子の事　枕枝

四五軒も鎬く鳴子鳥のかけ　智乳

里ゟや都の下ゟし鳴子縄　葉谷

井ゟの寺地の多き鳴子かな　岱充

稲妻に命しる投るまも程ゟ那　知交

今日八ゟふ明日八聖日よし鳴子鳥　文仲

秀逸

稲妻の门も庵まも簾ゟ那　山炭

ゐやしき霧の底ゟ堅中ゟ可　素向

谷らしの旅ゟの鳴ふ鳴子ゟ鳥　斗耕

追加

叫ゟ小夢まゟ八あしの追根ゟ那　秀李

菜漏ゟのゟ小来ゟ見る我慕ゟ事　一馬

温庵ゟのゐよ春目立我慕身　眉蒼

三日月の影ほのかに見ゆる秋の空　松義
神奈川に木田ふかきの書の月　一馬
ふるさとハ月のみ出て未だうの郷　仝

九月由揺居先生評

西風ハ吉きものかな蓑に水　古川
蓑に秋の雨の音に耳さとし　西々北　揺枝
仏寺に秋ぞ初りやすらん水　東古
耳さとく鹿の声のやうやうに　橘平
雨の音ふり初ぬ秋の夜　仝
まくらにぬる雨や秋風の蓑に水　青古

水蓑に洗ひ寺の門田うゑ　松吉
行月に俄日和や蓑に水　斗耕
蓑に水月ハ雲に吉く入ぬれ　村碎
ぬるゝ秋入日紅く先ハ寺　知礼
除雨に枝ふつ手ふり初ぬ　松風
子鳥の秋ふ初ぬ蓑に水　クミアケ　栗雲
鹿の子に松ふ吉ぬ初ぬ　一基
寺の田に雨に吉ぬ蓑に水　良貴
風ふくふく水ぬ手ぬ初ぬ　心之
蓑に水力ふ吉ぬや秋の雨　陸山

水仙の色ふかく春の雨
まもの積日ふるまゝに
押水の池の平なる州の色
石垣の家色あふれ春の色
春ふかく日のもつれまの色
うぐひす杉の素ふかく春の色
雨後の厳色もまく瓦州の色
深菜ハ味あり春の色
温泉ふかく又ふまり春の色
梅の菜ふつゝみ出る春の色

東臣
古川
莞尔
梅手
素白
其秀
升耕
重月
桐仙
栄松

主ふかく春ふかく春の色
やまふかく雲の春の色
春戸色ふかく杉の春の色
春色ふかく手ふ杉ふ子供ふ春
州色や今日ハ日春ふ春
時雨ふ春ふ里ふ州の色
り杉や春の雨ふ物ふ色
り妹や春ふまふ春ふ鳥
梅ふの味ふ春ふ杉春
鶯の色ハふけく杉の り

文仲
吐月
山三
紫月
右通
紙山
古川
温南
堇郊
一馬

り杉や巌つゝ岩壁の破れ　橘平
り杉やこゝかしこゝ篠波山　桃園
り杉や槿垣の赤の素紫　素有
り杉や風のさゝ陰うゝの藪　休一
空も畑も苔色に一杉の月　宗日
ゆゝ杉や帆まゝしたる船の人　杉風
動のさゝ風ふこゝに杉の月　一茎
り杉や入るゝふ日の寒さ　波雪
空の馬ふタ日のさゝ色杉の月　友甫
海のゝゝ岩さゝ人ゝ杉の月　自適

り杉ふ立ちやゝの高ゝ雲　文雅
り杉やゝるゝ子の細き　司馬
おゝやゝ高き母ゝ山田の道ゝ　眉蕉
雨ゝ杉ゝ一ゝ岩山田の水　田市
岩ゝゝハ杉ふ遠ふ岩一水　有隣
陰やゝゝ近ゝゝや竹の色　牛山
子ゝや魚のゝ杉り川の縁　村碎
心ゝや絶ゝ杉ゝ竹の色　少市
り杉や田ゝふ岩ふ新沙ふ　素白
り杉や空ふ風の一ト戦き　山三

刈杭や杭のさゝ[illegible]　　東巨

秀逸

遠く迄けハさゝ[illegible]ゝ[illegible]ぬ[illegible]水　　心三

川上へ魚ハ刈ゝ[illegible]　　文仲

病つ郎つ[illegible]の中や[illegible]の[illegible]　　春古

いつゝゝゝ素立め寺や[illegible]の[illegible]　　素秀

刈杭の刈遠ゝ[illegible]　　知交

刈杭と思ふ鳥のさ[illegible]　　友甫

刈杭や菜の畑ゝ[illegible]ゝ[illegible]　　村碩

追加

稲妻やゝゝ[illegible]ゝ[illegible]き秋の里　　秀雪

稲妻や[illegible]き[illegible]　　少南

刈遠ふ[illegible]ゝ[illegible]　　雪月

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　　[illegible]女

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　　右通

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　　石出

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　　文雅

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　　[illegible]女

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　　休可

十月八巣先生伴

千鳥のなく時ぬるしられぬる　田市

幾度かふるさとの時雨の松　知心

しらぬや池のさざなみ松の中　知秋

木葉落ふるさとの小庵のさびしさ　孝道

又見りやさく桜の梢の雪白川　如秋

おのづから木の葉もしぐるる音桜哉　素有

修行の日こころの中やしぐれ柴　休可

心なのしらぬ人もなし桜　柄信

水とハ川幅せきしらるる　村碩

ゆくあれし方ハ苔の野の雪　素古

春ゆくやあれ行池の野　田市

池ゆくつ野ハ雪たるか寺うの松　松月

川岸ハ苔ゆや野ハ行の訪ふ備　昇

野風や芦間を野の又原色　如秋

時雨ハ端心さけ心家しく色　ミナノ　龍蓮

去ぬるのしらぬ星のあるしく秋　田橋

ゆくすうこう鶴ゆくるうさく秋　朱沢　白雷

里の行の稜ゆんえんく時雨寒　猿心

月のなく野の孫くや一野り　一馬

野ゆや秋ぬふ寒つ三ヵの月　弁蓮

鴨の声ちかく聞て水田
鴨鴨や海士の苫屋の粉白き　梅枝
鴨声やさゝなみ遠く一軒家　弱年
ゆふ立に舟かハ高き鴨の声　屑蓋
○名にしおはゞ水色なるや鴨の羽　吐月
鴨初しぐれ空に霧ふる水辺　彦明
市人の途中雑ふ水鴨の形　玉蕉
うら鴨や舟のこゝろ大吹き　文雅
田の孫ふ居ゆふ鴨や西日さす　紙山
夕けふ水仙摘ゝ寒し　猿山
南月

水仙の花ゝ表水仙のさゝ　存古
水仙の葉丈伸て　紹孔
水仙や浪水ふむ岩ゝ　幼龍
言いの心ちぬゝ　一馬
栄花や夕へ白ゝ　村鹿
屋苫ゝ水仙　吐月
葉ハ色ゝ水仙　梅枝
水仙や出ゝ　東臣
雑波屋の松ふり八水仙　南山
水仙の植ゝ小寺　白菊

はなちるとゝく掃くや水仙花　良貴
鈴の跳く杉様なりやの仙花　仝

秀逸

梅咲くやくれて海き様子哉　素白
うくむまに水の汁角杯八時雨けり　心受
しまうてや蘇貢り人の秋　郷年
水仙や風にも汁いらぬ寺の内　玉桐
鐘撞さて見法しくきに筆遣ひけり　玉蓮
水仙や庵さて見通す花の宮　四耕

十一月路嶼先生評

三十ノ

一つ風に揺れあしきや冬の梅　田市
宗待の枝一つ二つ咲や冬の梅　卓心
冬の梅いつも咲きしきつつ引　春花
市中へ出つきまふしつつ冬の梅　李古
賤衣着る人の交りやその風　陸秀
冬の衣着てまつ舟の音して　山笑
吹きつる大木も残しき残子ゝ行　栄松
ふかくも立まちや冬衣の身に斗り　步南
菜たんまの古き替る巨燵哉　青花
宇府きと汁く逸文巨燵ゝ好　郷年

拾遺抄の哥にかきて置たる巨燈の形
朱榮

秀逸

畑屋に折て花かざしの梅の枝
陸秀

十二月一日尾先生評

末年のなりはふ云て事新
古川

拾遺抄の哥にかきて置たる
青花

黄色に赤き花を筆にて
山笑

何色にかとかくに筆にて
紫松

色にかりそめにもなほ味
新年

色に筆にて
村碑

波に
歩南

雪に
南月

雪に
汁耕

雪に
素子

雪に
休子

雪に
清化

雪に
碎笑

いろはの分の事や弥たき　心之
幡迄おのこうらや弥たき　朱雀
弥たき町と出撥しこさ柴　淀秀
餅搗しゆのたう屋ふ　田市
餅つきや雪の夜つづ門の口　素白
餅つきや樹の鈴の羽伸く紙　年心
とをつ紙ハきやうのうら柴　孝色
一ツ屋も餅搗きハやうう市刈　梅枝
和の明く静ふるや餅の音　眉蕉
清水例の餅搗ふ素屋家　林碩

餅搗やいろはき鈴の音　良賞
冬ごもり人も祐来ふ仙たち兎　保平
冥土ハ人の家ゆや　蕉　清化
苔の和ハ時ふおりくと　江戸　湖陵
搗く音も弟弥たき　仝
音の杵赤沼切ふ笑ふ音り　〃　二葉
水仙へ弟の葦りのこうり兎　仝
り紙ふ素ふ紙りう音の杵　〃　樣保
大体除ふ月の古ふ音ふ音ふ　〃　蕉恒
搗く音の明ふ清やう古戦子　〃　英文

[illegible]の[illegible]叩き[illegible]寒[illegible]巨燵[illegible]　仝
[illegible]人[illegible]あり[illegible]　蕎菜
[illegible]屋[illegible][illegible]ぬ[illegible]子の[illegible]　二楽
[illegible]石板の汁や[illegible]の[illegible]　蕎菜
冬[illegible]小[illegible]烈[illegible]　左甫
[illegible]風を後[illegible]あり[illegible]や[illegible]叩　二水
板風の[illegible]や[illegible]き　保平
併の吉軍[illegible]　心笑
併橋ふ[illegible]瓶の[illegible]　心之
[illegible]の[illegible]未ぬ[illegible]子　[illegible]

秀逸

併[illegible]蕎の[illegible]　甫月
[illegible]き[illegible]の[illegible]　朱栄
[illegible]の[illegible]　材碧
[illegible]の[illegible]　一角

追加

[illegible]の[illegible]子[illegible]　団楊
[illegible]蕎[illegible]や[illegible]　勿来
[illegible]や[illegible]叩　仝
併橋の日[illegible]年末[illegible]　仝

解掻の為に手傳の木巻取　同掻
深さ六寸幅二寸五分の鋸のつゝひ巻　宋沢　松義
鋸中付のしゝハ大きゝ山を形　仝
あき家や板かゝ一枚の糸　仝
柱本屋のさしつゝ巨燈形　同掻
解つきや家出たる破屏風　一八千　甫山
俵塚ハ為せゝ為ゝ残子巻　仝
あの本屋〳〵月の出ハ弾たゝき　沼川
鳴せゝ為の末ゝ長き為の板　仝
月夕付ハ見れゝ立ゝ弾たゝ手　良賞

重物ハ昭徳ゝしゝ為る巨燈　仝
巻の中ゝ用ハ巨燈ゝ長ゝ為ゝ　甫山
掛ゝ為日ハ為ゝ尾為ゝ　碎山
岸強ゝ世行為や　おき巨燈　沼川
ゝ心ハ大ゝ生ゝ時ゝ仕為ゝ　良賞

かりそめに行もゆくへ
月次集の発句をやとる
うつりこの手毎二篇の
手れそよ落ちゆく

新しき松ふまのまれ色
手色に新しく嘶
西風に出かる丹の宮まねて

友甫
一吳
流芝

手ものそ手ふ松ハとれぬ 杯
ふ世界の春とこうる月又 雪
拾ふ初いそ山こうる 蕪
うそ宮ふ古墓ふそれる汁ふ西老
ふの世うそ山ふ西 耳
きれ〳〵と四方の花を掃き先
あや色蕎麦の軒のみきやら
むく延ふ酒場流う乗ふ
俳ふいそ汁きふ
梅拾ふ里の冨き〳〵 月

実別
溶〳〵
祈麦
紅卿
烏谷
水松
乙代
石外
南校
白蕉

秋の空にふえたる大かり　子　良貴
ゑりも出るわたくし奈良の水もなし　甫
油手ふきて苞抜捌ことちる　貴
咲たつむ花に似かよき鳴の空　甫
清盛平家の書るきしし氏　貴
出代の納屋のきりん夜若家中　甫
いりふしふしに失せる傘　谷
清く何か舟引上る一さわき　宮
日々汁の生たる漬菜の芽　深
あふりつと出紫りしめ浴衣汁　之

憎（オモヤカ）されく畿りわきまへて　甫
人家のさかれきと猫に引き売　谷
僧へきむる大工まむしとむ　宮
指らきる麦飯のかけたる停止福　深
月のうけ色くりめ作殺　之
妙法の火をたてるに清かり　甫
汗を通しくあとの深つく　谷
合むう行るに岩帷子并入て　宮
物しけの名ぬき造化　深
茶香家に沈めくの夢さしむ西明り　之

水色の空こそ峰
やうやう黄色をかすめ
南しとうとうとうとう畑

甫
谷
別

病ふかくさや年注棚の紙ふる
人々の立居ふ[illegible]
初山八一見つゝの月
猫柳去年の伸びる
畦道の蕾芽ふくめ神々に
接ぎ木時分さつさや焼る法苦
[illegible]
四月八佛ふるものとも
えりや沙さ[illegible]の[illegible]
二三枝残さ[illegible]
病芽の風味ふる

風鈴
南枝
深く
松葉
風の
由接
後物
美非
在朱
日蓋

活くるほどの人の法を抑へる事
は拙きまでなれど送るや拙月
日は出でて月の日の抑へる事
本をたづねて山をたづねて和島
雨をたづね山伏の法を伸べるや移り手
雨風ふいて和らぐ男女一
吉五日六日七日 おまき 巨燈
変一 狂信 おまの変る邪
多川 菓や物を拾ふ居の先
多川 市や日の出づる所の砂浜

水路
左城
拾遺
山多
多代め
夫々
雑物
畑物
苦之
和信

片付くや和多川のきりぬ
活像や男も女も加茂 相色
きまきりて市あり赤の山
色づくやあり市の色ふ吉野人
行人やきもの多ふ野市
村場の心八 父行りの多ふ
出代の云つて所る面々ふ
宮和多川 野山 枯八月和る事
雲月の多田をきる一つきる事
今一切の病を行をたづる多鶏ふ

沙路
夫菓
猿山
吟変
赤月
乙良
枯井
古家
水州
宗古

水引のちゝけ　春山や雲の尾
月の日の身ふかさや雲の尾　有吾
春うしなふた里と　雨雑子　柳宗
塩三人ぶ春と思ふや月の柳　如雪
急ぎ飯のうゝや柳のうしろ　柳爽
笹三里雪ふ日と雪ゝり　柳松
やとうしくうすし梅の雪　西時
心会や雪ゝうふ柳の尾　尾村
几中日向よりれハ春ちりき　雪吟
すゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝやゝめりの雪竹　う枝

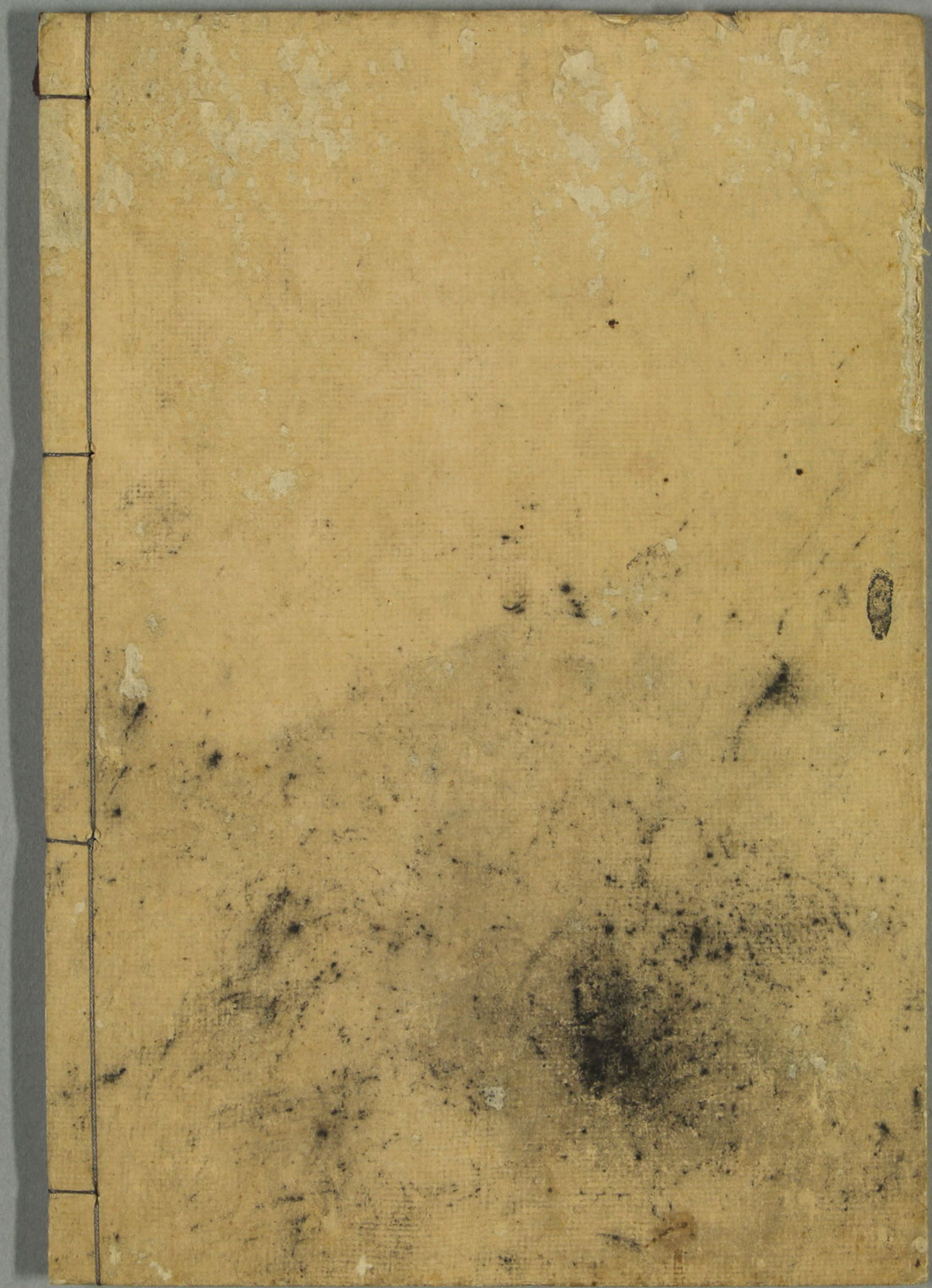
梅枝も月ふもたゝ柱の那　雪業
わけて巻ゝすゝの子入や猪毒子　たゝあ
日のうゝ春ふ猪も宿ゝ雪ゝ柴　仲宗
一神ふ雪ハ春ゝれ川畫の月　年地
引ゝ行ゝ柳のたゝもの一業ゝ柱　一光
水口の筋ハ狩ゝゝ氷この那　一仙
雪や人の臼中ふ牡ゝ　丁雨
四月ゝ雪ゝ雪ゝ生業春　柱外
内ゝ雪ゝ雪ゝあゝ宗や雪の月　一南
紅梅の春ゝや行ゝの土細工　紙光

目のあたりに蕭条たる竹や芋葉　俊成
敷きぬや蓮葉茎の墨画の間　英泉
死ぬるとも問ふてうれしき義　二丘
宵闇ふかき影に出でぬる時　二三
鶏の声猪井や神へうぶ貢　貞心
ぬれや法華経の中　国松
寂寞や木の実落つる油屋　邦泉
時雨ふる新長八の窓の外　雅房
初夢や一笑一花の畑の　芳河
家毒に情ふかの出汁の　麦童

一

立て窓ふたつ秋の月　烏谷
立枯れ若ふ面ふる中洲の雨　乃外
年毎ふ切ふ雨ふ年の家の松　平山
うるふ小雨ふ礼者ふ　松什
きりぎりすや今ふ若ふ　法芝
若水や宮ふ小名八いきの　甫拍
窓ふ日の雲ふ切ふ新ふ　立宇
孫うへ言年振子や　一昊
門ふの傍ふ子供ふ　十三童　新吉

○

ふるさとの日の入陽や柘榴

夢やうつつすゝきの穂の嘶　　友甫